

図書館だより

1989. 7. 10

第11巻 2号

通巻110号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

紫の太陽——あじさい変幻

あじさいの季節が来た。梅雨どきの深い藍色が実にいい。万葉人もそれを知っていたのだろう、万葉集では「味狭藍」と表記されている。「味」は「うまし」、つまり「すばらしい」の意味があるから「味狭藍」と書いただけで、藍の美しさを嘆賞する心は伝わってくる。

しかし万葉人には、色の美しさよりも、色の変化することと、この花が重なって咲くことのほうに興味があったようだ。万葉集の二首の歌(773, 4448)はそれを語っている。

二首のうち、一つは、あじさいの変化をひきあいに、相手の心変りをなじるものであり、もう一つは、「アジサイがかさなって咲くように、多くの世にもいらっしやい、あなた、見つとお慕い申しましよう。」(武田祐吉『万葉集全講』)とあって、相手の幸運の重なりを祝福する歌となっている。

これはなかなか含蓄にとんだ発見ではあるまいか。かりに「あじさい女」「あじさい男」と呼ばれたら、使いようによって、心変りしやすい人間の意味にもなるし、ラッキーな運命に恵まれた人間の意味にもなるというわけである。万葉人も、イキなセンスを見せていたわけだ。

現代では、あじさいに「紫陽花」の字をあてる。



昼の視力まぶしむしばし
紫陽花の球に白き嬰兒ゐる



彩時記

ことの葉

菱川善夫



紫の太陽のイメージがこの中にはあるのだが、これはまた驚くほど詩的ではないか。太陽のもつ生命力と、球形の花としての球体感覚が、この表記の背後には息づいている。それをみごとにとらえたのが葛原妙子の次の歌である。

昼の視力まぶしむしばし 紫陽花の球に白き
嬰兒ゐる 葛原 妙子

紫陽花は、嬰兒を孕んで咲いているのだ。球体は、ここでは子宮ともつながっている。

しかしいま、どんな紫陽花の歌にもまして、私は次の一首を心にとどめる。

紫陽花のかなたなる血の調理台 こよひ食人の
たのしみあらむ 塚本 邦雄

6月4日、「血の日曜日」と呼ばれた日の天安門広場は、まさしく「血の調理台」ではなかったか。権力者の「食人」の快楽のために、世界中の紫陽花は、今年、紫の影を濃くするにちがいない。

(ひしかわ よしお 図書館長・教養部教授)



オリジナル新版

世界名著大事典

全16巻 平凡社

魂の銀河

トルストイの『戦争と平和』から国木田独歩の『武蔵野』まで古今東西の大著小著を網羅した便利な解説書。まさしく知求人の座右の書にふさわしい。以前に出たものの新版。カラー写真が適度に配置されて心がなごむ。

そのうちの一つ「武蔵野」のおもかげを伝える玉川用水の写真はさわやかだ。

全16巻のうち著者の索引もあり、「人名辞典」としても役立つ。2階辞典コーナーにある。

むかし漱石

今 BL (ブリティッシュ・ライブラリー)

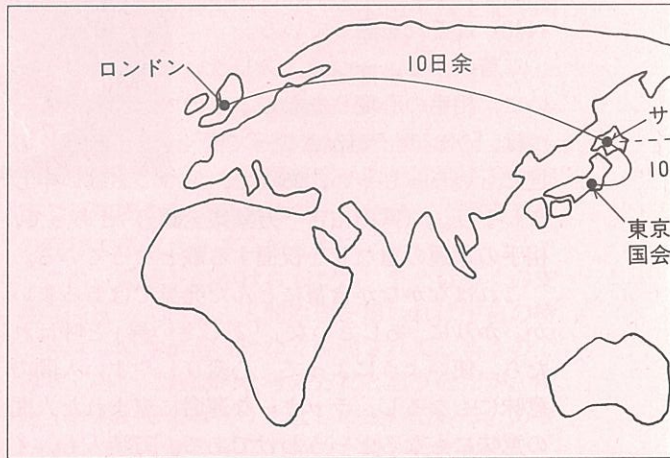
— 居ながらにして留学気分 —

10日でロンドンから本が来る

漱石がロンドンに留学したときは下宿にこもって本を読んでいたという。今はそのロンドンから、わずか10日で本が借りられる。

信じられないことだが、我が図書館はイギリスから本を借りる国内唯一の「センター」となっている。これは「図書館ハンドブック」には載っていない本学が自慢出来るレファレンス活動。

最近はようやく知られて国内の大学からの問い合わせや利用が増えはじめた。



人間は何をしかねないのか

これを我々は自らの歴史から学ぶ

知求
語録

— 西独ワイツゼッカー大統領

以前朝のドイツ語講座で聴いたワイツゼッカー大統領の演説(1985年5月8日)が『荒野の四十年』(岩波ブックレット)として出た。

ナチから自由になった5月8日が「何よりもまず人々がなめた辛酸を心に刻む日」であり「誠実であればあるほど、よりこだわりなくこの日のもたらした諸々

『荒野の四十年』(岩波ブックレット)

の帰結に責任をとれる」と語る姿は過去に犯した民族の誤りを率直に認めた人の心の謙虚さと大きさをみる。まさしく「政治の知求人」にふさわしい。

にもかかわらず人類は歴史をくり返す。ナポレオン、ヒトラーそして今アジアで……。

知求

マイクロコスモス
特集

衛星

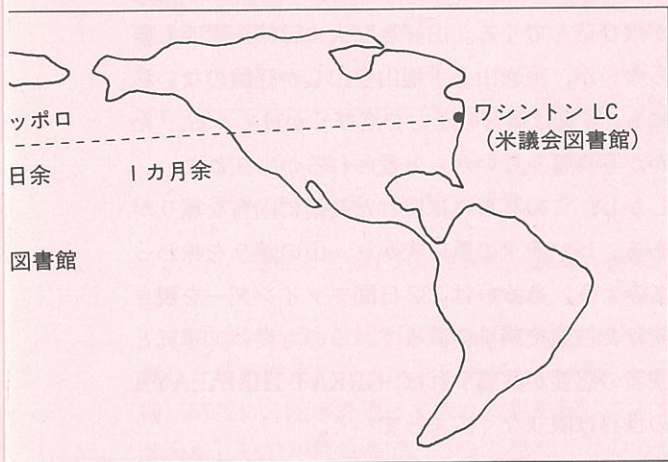
開かれた国イギリス

国内の借用もままならないのにイギリスの図書館は外国に自由に本を貸出す。

BLとは「ブリティッシュ・ライブラリー」のところ。正式には「ブリティッシュ・ライブラリー・レンディング・ディヴィジョン」という。

ロンドンと札幌間の10日間は本学が国立国会図書館から借用する日数とかわらない。

「こんな便利な制度があるんなら留学などしなかったろう」と今ごろ漱石はつぶやいているかも。



痛恨のボギーもさわやか

—— 全米オープンジャンボ尾崎 ——

ゴルフの四大タイトルの一つ「全米オープン」最終日（6月19日早朝）。トップと並んでこれからという尾崎ティショットが林の中へ。痛恨のボギーでビッグタイトルの夢は去った。

「あそこでフェアウェイに打てば全米オープンなめている。アメリカの選手は100倍ものプレッシャーを感じているんだ。」

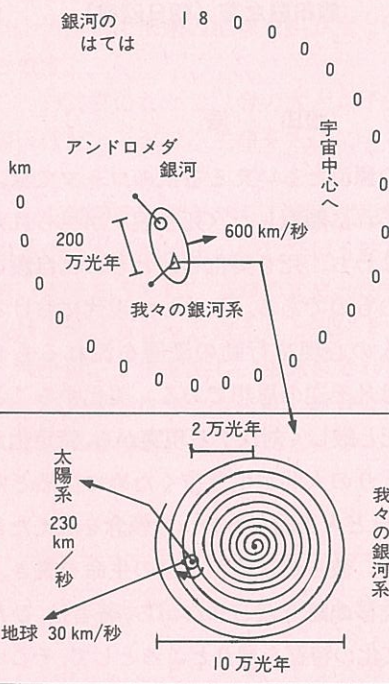
逆境を克服したジャンボ。次は「全英オープン」。



太陽、汝は動く

— 『別冊サイエンス宇宙の巨大構造』

(別冊88号) から —



太陽系の動き
秒速 230 km
2億年で銀河中心を1周

あの地動説のガリレオですら「動かない」と言った太陽は秒速 230 km で我々の銀河系の中心を回転している。一周には2億年がかかる。

20世紀アインシュタインが開いた宇宙の扉は新しい天文の知求人を生み出した。

その一人ハッブルは「ドップラー効果」による光のスペクトル分析で「宇宙は膨張する」ことを発見した。その結果宇宙のはては「180億光年」の先であるという。1光年は距離にして10兆 km。180億年は18億年×10兆 kmで0が22個。

数学書『塵劫記』によれば不可思議は数の単位である。「兆」「京(けい)」の次の「垓(がい)」にあたる。

我々の銀河系は直径が10万光年の「うず巻き銀河」で太陽はその中心から2万光年。「別冊サイエンス宇宙の巨大構造」の不可思議な世界から。

本気で読もう

『生と死の思想』

—— ヨーロッパ文明の核心 ——

鯖田豊之著（朝日選書）

松田 浩

西欧文明の源流ともいえる古代のローマでは、近代日本のそれに類似した〈死生観〉が見られたという。すなわち、死を美化し、ときには自殺を称讃する類のものである。しかし、現代におけるヨーロッパ人の心理や行動の深層を流れるものは、これとは凡そ逆の思想である。美化することが許されぬ死と厳しく対決する現実から、特定化された独りひとりの人間が生き抜くために自然とたたかい、どれほど人工的なものへの執念を燃えさせたことか。彼らが求めた永遠の生命を説き、墓像彫刻の推移の跡をたどりながら、著者は、ひたすらに肉食文化の特質を掘りどころとして、そこにある文明の思想構造を解き明かそうと試みている。

表題で見ることかぎりでは、肩肘張って読もうと構える向きもあろうかと思われるが、案外何の気負いもなく“気楽”に読みはじめて、“本気”になって読み終わられる類のユニークな文化論であると言えるかも知れない。

（まつだ ひろし 教養部教授）

白旗 史朗

『THE GREAT HIMALAYA』

ネパールヒマラヤ写真集』

（東京新聞出版局）

余湖 典昭

ここで紹介する本は高価である（38,000円！）。おまけに限定出版である。さらに不幸なことは、大きすぎて普通の書棚には入らないし、広げるにも周りの掃除から始める必要がある。こういう本は図書館で見るに限る。幸いにも（？）この本には活字が少ない。主役は78枚の写真である。とりあえずページをめくってみよう。ヒマラヤの自然が飛び込んでくる。山好きな人には何の説明も要らないが、藻岩山と手稲山登山しか経験のない私にも、写真は無言の圧力を浴びせかけてくる。『たかが写真じゃないか』と言われるかも知れない。しかし、この写真には優れた芸術に固有な薫りがある。ヒマラヤの風に吹かれ、山の薫りを味わってみよう。あるいは532日間ファインダーを覗き続けた白旗史朗を自演してみるのも良い。写真と読者の感性が共鳴すれば、GREAT HIMALAYAの世界は限りなく広まっていく。

（よご のりあき 工学部助教授）

新着図書 — 経済

戦略的企業革新 吉原英樹著／マクロ経済学 新開陽一著／実証会計情報と株価 石塚博司編著／ネットワーク時代の組織戦略 —「日本の組織」Pilot book— 今井賢一 [ほか] 著・監修／ケインズ経済学と現代 信田強著／覺書終戦財政始末 全25巻 高石末吉著／経済学用語の基礎知識 荒憲治郎 種瀬茂編 増補版／マクロ経済学のフロンティア —景気循環の諸モデル— R. E. ルーカス Jr. 著 清水啓典訳／国際マーケティング 山田榮著作／ケインズ研究「貨幣論」から「一般理論」へ 平井俊頭著／転換期の国家・資本・労働 —両大戦間の比較史的研究— 廣田功 [ほか] 編／無在庫経営への挑戦 湯浅和夫 大槻憲昭著／中国の経済政策 —社会主義経済論— 三木毅著／地域再生のビジョン —内需拡大と地域振興— 清成忠男著／現代経済分析の想源像 —未来の選択を歴史に学ぶ— 四野宮三郎著／21世紀への展望現代の資本主義・社会主義 上田耕一郎著／1990年の大恐慌 R. バトラ著 佐藤隆三訳／人材形成の国際比較 —東南アジアと日本— 小池和男 猪木武徳編

気楽に読もう

快楽のテニス講座

村上 龍著 講談社 1988

最近は“見るスポーツから参加する”スポーツ
そして何よりも楽しくが現代風？ のようです。
マリンスポーツやゴルフに押され気味のテニス
ですが、まだまだ根強い人気を保っています。

本書は「限りなく透明に近いブルー」で芥川賞
(1976)を受賞した“龍さん”のテニス入門講座で
すが、技術解説書ではなく、テニスの情報を整理
したものと著者は言っています。

初心者への為の基本から高度なテクニックまで写
真と図解による解説、そしてフォアハンドとサー
ビスが少しでも出来るようになったら、どんど
んゲームに参加をと奨めています。

夏休みは理論と実践に最も良い季節です。

秋には強烈なサービスを！

(C)

ガラスの地球を救え

手塚治虫著 光文社 1989

故手塚治虫さんは、子供をとて愛していま
した。子供は、未来の地球を担う宝と考
えていたからです。

この図書のなかで、今の大人が子供に
しなければいけないことは、生命を大切
にする心をしっかき教えることだと語
っています。

命を最優先に考えたら、絶えず世界のど
こかで起きている人間同士の殺し合いも
防げ、便利さを追い求めるうちに、いつ
のまにか汚染し、破壊し続ける地球も
きっと救えると思います。

今一度、子供を愛し、永久にきれいな
地球を願ひ、この思いをマンガに託し
続けた手塚作品を読んでみませんか。

(O)

アール・ヌーヴォーの“代名詞”
アルフォンス・マリア・ミュシャ

『生涯と芸術』『装飾資料／装飾人物集』

ジリ・ミュシャ著

19世紀末—20世紀初頭かけ欧州美術界を風
靡した装飾様式。アール・ヌーヴォー（新し
い芸術）時代に、活字を追って疲れた目を
転じてみませんか。いつか何処かで、き
っと見たことのあるポスターやパネルに
再度出会うことが出来るでしょう。これ
が、アール・ヌーヴォーの“代名詞”とい
われたミュシャの作品である。なかに描
かれている美人、当時の女優サラ・ベル
ナルとの出会いにより、ポスター画家と
しての名声を得た。一方彼は、日本の
芸術品と出会い、作品を世に出すき
っかけとなったといわれ、殊更身近に
感じさせられる。ミュシャは、1860
年チェコスロヴァキヤ生れ、くしくも、
今年（1989年）はミュシャ没後50年の
年にあたる。尚、道立近代美術館では、
7月9日までミュシャ展が開かれていた。
美術館に出向いた方は、当図書を閲覧
し、再度想い起しては如何。

(T)

ネゴシエーター 上下巻

F・フォーサイス著 篠原 慎訳

1989年11月、モスクワとヒュース
トンで二人の男がまったく別ルートで、
石油危機を予見する調査結果を手にし
た。米ソ両国間で大幅な軍縮を行う条
約批准の間近でもあった。この条件
下、ソ連軍部と米国軍需産業界が結託
し、米大統領の失脚をはかるため息子
の誘拐を計る。誘拐犯との交渉に活躍
する交渉人“ネゴシエーター”を中心
に物語は展開する。

「ジャッカルの日」以来、人々を魅了
すること大の作者が、又々発表した最
新作。フォーサイスの全てがつまんで
いるといつてはばからない人もい
るという、最超未来冒険小説である。
綿密に調査され、事実の裏付けによ
る事件の展開は、私達生活の不安の
部分を予見しているかも知れない。

(K)

「おくのほそ道」300年

今年、芭蕉がおくのほそ道の旅に出てから300年めにあたるということで、そのゆかりの地ではさまざまな記念行事が企画されているそう。おくのほそ道にちなんだ出版物もたくさん出た。タイヘン結構デスネとっておきましょう。

芭蕉の「おくのほそ道」の旅の翌年、1690年、オランダ商館付きの医師として長崎出島に着いたドイツ人、エンゲルベルト・ケンペルは、滞日2年の間に長崎と江戸を2度往復した。その間の見聞、印象、体験、思索を収めたもの。それが『江戸参府旅行日記』である。元禄時代の日本をヴィヴィッドに写し出した名著である。この中でケンペルは、日本の国の街道には毎日信じられないほど夥しい人間が出ているが、それは「この国の人が他の諸国民と違って、非常によく旅行するからだ」と述べている。

江戸時代、旅を好んだのは芭蕉だけではなかったのだ。

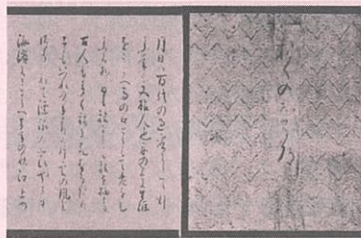
また、今の日本人が、休日がつづけば「それっ！」とばかり、いっせいに国内・国外の旅に出かけたがるのも、伝統的な日本人の「余暇時間」の過ごし方であることがわかる。

新しがってみても、昔の人と同じようなことをやっているだけ。そして、それを知らないだけということは、ほかにもたくさんあるだろう。——学生諸君に言いますが、無知って別に自慢すべきことではありません。



洞哉の草庵(蕪村筆「奥の細道画巻」より)

山根 對助



素竜筆「おくのほそ道」文化11年(1814)

日本人が書き残した旅日記も夥しい数にのぼる。その中でも、とくに「おくのほそ道」が尊重され、読みつがれているのはなぜか。彼の旅は、物見遊山、つまり観光旅行ではなかった。といって、ふつうの意味での実用的な旅行でもなかった。

未知の自然に没入して美意識を磨き、その土地土地の人々との文学(俳諧)の交流を通じ、悠久の自然の中における人間の営みに深く思いを致し、彼としての文学の本質をきわめるに至ったその軌跡が「おくのほそ道」に結実している。日本語による真正の表現を確立するための挑戦、それが後代の人々の心をうつのであろう。

芭蕉をしのぶみちのくの旅に出るのもよかろうが、友人知己とのおしゃべり旅では単なる遺跡めぐりに終わってしまうだろう。「おくのほそ道」本文を熟読して一人その足跡を辿るべきだ。

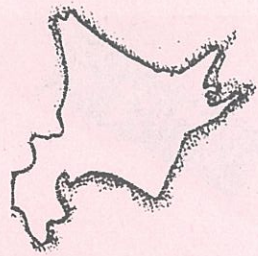
なお、これとは全く性質は異なるが、1845年にはじめて蝦夷地に渡った松浦武四郎の北海道旅日記集。間もなく150年になるが、あらためて研究を深め、再評価すべきではないか。それにあたいするものであり、北海道人の責任とも思えるので一言つけ加えておく。

(やまね たいすけ 教養部教授・日本古典文学)

新着図書 — 法律

注釈刑事確定訴訟記録法 押切謙徳 [ほか] 著/身元保証の研究 西村信雄著/不動産登記の諸問題 上, 下 香川保一編/口述刑法各論 中山研一著 第3版/民事訴訟法演習 1, 2 三ヶ月章[ほか] 編 新版/実践としての学問 一日本の知性批判のために一 高島善哉著/金融取引体系 3-6 鈴木祿弥 竹内昭夫編/大陸型違憲審査制 和田英夫著(明治大学社会科学研究所叢書)/なぜ「表現の自由」か 奥平康弘著(東京大学社会科学研究所研究叢書71)/憲法論集 宮沢俊義著/政治思想史の基礎知識 一西欧政治思想の源流を探る一 有賀弘 [ほか] 編/国際私法概論 木棚照一 [ほか] 著/住民訴訟の実務と判例 仲江利政編/転換期の借地・借家法 水本浩著/会社法演習 1-3 上柳克郎 [ほか] 編 鈴木竹雄 大隅健一郎監修/政治 依田博著/憲法訴訟の理論 芦部信喜/表現の自由 1-3 (全3巻) 奥平康弘著(東京大学社会科学研究所研究叢書50, 60, 62)/刑法要説各論 岡野光雄著/司法審査と人権の法理 一その比較憲法史的研究一 鶴飼信成著

道産子読本



—— ほかいどうの本抄

2. 写真を見て北海道を考える

北海道のことを、初めて訪れた人は、「スケールが大きい!」と感じるようです。ということで、今回は「北海道」とらえた写真集を紹介します。

北海道と言えば大自然、写真集北海道の山々/湊正雄(監修)、写真集日高山脈/鮫島惇一郎(他編)、釧路湿原/表優臣、北海道の自然①~⑤/淡交社等々、北海道の自然は被写体として魅力的なようで数多くの写真集が出版されています。

次に、大自然と言えば野生動物でしょう。まずキタキツネの写真集から、キタキツネの季節/今津秀雄(写真) 神沢利子(文)、跳ベキタキツネ/竹田津実。北海道の厳しい自然を生きるキタキツネの姿は、時には凛々しくも感じられます。他にもタンチョウー根釧原野に生きる/林田恒夫、FISH—OWL カムイの夜シマフクロウ/嶋田忠、火の鳥アカショウビン/嶋田忠、カワセミー清流に翔ぶ/嶋田忠、エソシカ・雪原に群れる/窪田正克、サケー母なる川に帰る/桜井淳史、カムイ・トーー北海道の神秘と野生を探る/朝日新聞北海道支社(編)、北海道の野生動物/小田島護など。

最後に、明治期から北海道の輸送を担ってきた



鉄道の写真集。北海道のローカル線・旅の途中/ばんどうただあき、写真集国鉄北海道ローカル線/北海道新聞社(編)、写真集さようなら青函連絡船/北海道新聞社(編)。利用減少のため赤字経営となったローカル線は次々と廃止されました。こうやって在りし日の鉄道の写真を見ると現在の北海道が大きな転機を迎えていることを実感します。

北海道に住んでいる者にとっては、雄大な自然も時には大きな障害となります。美しい写真を見て感動するだけでなく、その奥にある現実にも眼を向けて考えてみたいものです。

北海道関係 — 新着図書

ニューガイドα 北海道ドライブ&ツーリング/マップルガイド 17 北海道 — 魅力の旅まるかじり・道南・道央・道北のみどころ満載—/北海道 2 輪車ツーリングマップ/北海道道路地図 1:250,000 最新版(グランプリ 8)/北海道道路地図 — エリアマップ— 最新版(グランプリ 8)/北海道道路地図— グランプリ 1:400,000/札幌周辺道路 10 万分1 — エリアマップ— (グランプリ 19)/道路北海道地図 1:250,000 (グランプリ S)/北海道詳密道路地図帖 — ミリオン・デラックス— 1988 増補改訂新版/北海道都市地図 札幌区分 新版/北海道 — 大自然を走る爽快ドライブ— シマウマクラブ著 石山勝敏[ほか]写真/歩く見る札幌 — 札幌と周辺の観光レクリエーションガイド— 札幌市経済局観光部 [編]/北海道大百科事典 上, 下 北海道新聞社編/北の海釣り 1—4 俺の釣り — 北海道の釣り専門誌— 特集号/わが動物記 犬飼哲夫著

書遊録

おすすめ VIDEO

工学部図書室には、ビデオ (VHS) とカセットテープ視聴用ブースが4席あり、学園生なら誰でも利用できます。(利用時間 平日 9:30~4:30 土 ~11:30) 但し、豊平本館では利用できません。

工学部図書室所蔵ビデオ (撰):

NHK ルーブル美術館1-13/神なる王, ファラオの時代~古代エジプト~ / 皇帝たちの光芒~古代ローマ~/花開くルネッサンス~レオナルド・ダ・ビンチへの道~/ロココの華~ルイ15世の時代~ etc. / NHK 世界の科学者は予見する~核戦争後の地球1, 2/地球炎上/地球凍結 / F A I 人工知能の基礎知識 (日本語版) ~インテリジェント テクノロジー~/ A I とは何か/ 問題解決/ 自然言語処理/ 知識表現/ エキスパートシステム/ 製造業における A I / 画像理解/ 音声理解/ ロボット工学/ A I コンピュータ・アーキテクチャー/ 日刊工業新聞教育用ビデオ/ FORTRAN プログラミング1-8 / コンピュータシリーズ フローチャート入門1-4 / コンピュータシステム入門1-6 / 情報処理システム1-4 / アセンブラ入門1-7 / パーソナルコンピュータ入門 BASIC プログラミング1-4 / 日立製作所 (編) コンピュータ教材 改訂構造化 COBOL プログラミング I・II / DECUS Video Library 日本デジタルイクイップメント/ス

タンフォード大学における分散型ネットワーク / テキサス大学キャンパスネットワーク / シンポジウム UNIX 人工知能 / 鹿島ビデオパック 鹿島建設 / 明日をひらく新素材 / 原子力発電とその安全性 / 青函トンネル / カジマ・エアドーム / 新宿新都心の建設, 超高層ビルの耐震設計 / 観世能楽堂 / 海底油田へのアプローチ / ロボット・自動化技術 etc. / 瀬戸大橋3,400日 海洋架橋調査会 etc.

図書館展示会報告

平成1年6月~8月末まで下記のテーマで展示中です。ぜひ、ご覧ください。

テーマ: 「漫画と雑誌で綴る明治・大正・昭和
近代文学絵巻」(図書館きかく其ノ五)
場所: 自由閲覧室一階

ポスター

漫画と雑誌で綴る
明治・大正・昭和
近代文学絵巻
〔図書館きかく其ノ五〕

浮世絵と芭蕉三百年
自由民権歌 とんやれ節
漫画風刺新聞「團圓珍聞」
漱石・藤村、直哉原稿
日露戦争と夢二、少女雑誌
大正デモクラシーと賢治
佐藤春夫、実篤、里見の寄書
プロレタリア文学と多喜二
昭和20年代創刊雑誌一般
戦後の主要文学賞第一回号
主要文学誌一覽
(場所) 図書館一階自由閲覧室
(期間) 8月末まで

新着図書 — 工学

鉄筋コンクリート終局強度設計に関する資料 日本建築学会編 / SNOBOL 入門 テキスト処理のためのプログラミング Susan Hockey [著] 戸田慎一 [ほか] 共訳 / Macintosh 西林瑞夫著 増補版 / 建築構造設計シリーズ 2, 3 建築構造設計シリーズ編集委員会編 / 建築不静定ラーメンの解法 岡島孝雄著 / 日本都市年鑑 全国市長会編 / 鋼構造設計基準 日本建築学会編 / C プログラミング入門 石田晴久著 / RUN / C 演習問題150 有賀浩著 / 不静定構造力学の解法 岡島孝雄著 / マトリクスの数値計算 戸川隼人著 / 復元日本大観 4 船 (石井健治編) 世界文化社 / 建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 日本建築学会編 1986改定 (第7次) / 建築工事標準仕様書・同解説 JASS 6 鉄骨工事 日本建築学会編 第4版 / 現代オペレーティングシステムの基礎 萩原宏 [ほか] 共著 / 物理学 One Point 28 小出昭一郎 大槻義彦編 / 建物をめぐる水の話 紀谷文樹編著 / 建築基礎構造設計指針 日本建築学会編 / オペレーティングシステム 設計から実装へ Raymond W. Turner [著] 斎藤忠夫監訳



煮込み御飯

大江 敏 美

アメリカのカントリー・ミュージックの名曲“Jambalaya”を聞いたことはありませんか。メロディーを聞けば、一日の労働を終え、食べて、飲んで、踊って、騒いで、気晴らしをしているアメリカ南部の農民の姿が、目に浮かんでくることと思います。明るくて、楽しくて、うっとおいしいけれど、勤勉で古い伝統に根ざした田園牧歌の生活がそこにあります。作詞作曲は、ハンク・ウィリアムズ (1924-53) です。

この曲は、フランス南東部プロヴァンス地方の民俗音楽にルーツがあります。1698年にミシシッピ下流地帯にフランス農民が入植し、フランスの植民地ルイジアナ (ルイ 14 世にちなむ) ができました。さらに百年後カナダの旧フランス植民地アケイディアから英国王に対する忠誠の宣誓を拒絶したために追放されたフランス系農民がここに脱出して来ました。彼らはアケイディアンの短縮形であるケイジュン (Cajun) と呼ばれています。(同じように「トム・ソーヤーの冒険」のなかに Indian の短縮形の Injun のことばがあります。) 古い形のフランス語を土台に英語、スペイン語、ドイツ語、インディアン語、ニグロの言葉が混ざってできたケイジュン語が、家庭内で使われ続けています。

Jambalaya とは、鳥肉、えび、トマトなどをお米に煮込んだ料理です。語源は、プロヴァンス語です。歌のなかの bayou (パイオウ) はアメリカ南部の沼沢地の沼、son of a gun には解説が要ります。gun は俗語で泥棒、すり、殺し屋ですから、そういう者の子ということは、ろくでなし、ごろつき、くそやろうというような最低の罵り言葉になるし、またこの歌のように、ごくごく親しい仲間同志がお互いを呼ぶときにも使います。TPO を考えて使わないと、大変なことになります。英語には、4-letter words とってスペルしてならない言葉があります。神聖な JHVH とか性に関する言葉です。

それでは、歌詞の一部を下に書いておきましたので、挑戦してみてください。

Goodbye Joe, me gotta go.

Me gotta go, pole the pirogue down the bayou.

Son of a gun, we'll have big fun on the bayou.

Jambalaya and a crawfish pie and fillet gumbo

…

(おおえ としみ 教養部教授)

教養 — 新着図書

医療的認識の探究 — 増補改題 — 中川米造著/地球が病む日に生きている — 地球市民の自由 — 森本憲夫著/一つの教訓・ユダヤの興亡 山本七平著/大気のおいたち 秋山雅彦著/剣道はこう学べ — その理論と実際 — 井上正孝著/心理学要論 麦島文夫 [ほか] 著/子どもとコンピュータ 大隅紀和著/言いたいことがありすぎて 丸木俊著/未来の図書館 情報社会における知識と情報の流通 原田勝著/スケーターワルツ 加賀乙彦著/英文正誤活用辞典 I. Womack [ほか] 著/飛行のはなし — 操縦に極意はあるか — 加藤寛一郎著/ドイツ語コーヒー・ブレイク, 続 小塩節著/新ドイツ語の基礎 — 2色刷 — 関口在男著/超電導ビジネス — 10兆円市場の全貌を探る — テクノネット著 後藤俊成監修/スペイン — 歴史的省察 — J. V. ビーベス著 小林一宏訳/看護病棟日記 宮内美沙子/中学生の勉強法 — 実力10倍アップのひけつ公開! — 石井郁男著/座談会明治文学史 柳田泉 [ほか] 編/英文の書き方事典 三浦新市著/「東京集中」が日本を減ぼす 八幡和郎著



季 想 点 描

煙突の見える風景

國 田 祐 作

『煙突の見える場所』という映画があった。椎名麟三の小説を映画化したもので、五所平之助が監督、田中絹代と芥川比呂志が主演であった。しかし、この映画の陰の主役は「お化け煙突」であった。

「お化け煙突」というのは、千住にあった東電火力発電所の煙突のことである。四本の煙突が、眺める方向によっては三本に見え、二本に見え、全く一本の巨大な塊りになる。上野から常磐線に乗ると間もなく、それが見えた。北に向うために大きく迂回する汽車の窓から、重なったり離れたりしながら遠ざかる「お化け煙突」を眺めるのは、休暇で北ぐにに帰る学生をいくらか安らいだ気分させた。

下町の暮しをテーマにしていた写真家木村伊兵衛も、この「お化け煙突」にカメラを向けていた。私たちも出かけて行って、荒川に影を映す煙突をスケッチしたりした。休むことなく煙を吐き出す煙突は、シャニムニ働らいている実直な生きもののように見えた。燃料が石炭から石油になると、この煙突たちは壊されて姿を消してしまった。一定の高さを持つ排気筒であればそれで済むのであ

る。

工場に煙突はつきものであった。へ札幌のビール工場のエントツは……、という戯れ唄はむかしの酒の席でよく歌われていた。きっと、どの町でも土地の工場の名を織り込んで大きなエントツを歌ったことだろう。銀座のライオンは札幌ビール直営のピア・ホールだが、この内部正面に大きなモザイク壁画があって、ホップを摘む乙女たちの彼方に、この大エントツが描かれている。

F・L・ライトの流れを汲むこの建物をはじめて教わったのは、学生時代の建築の先生からであった。ふだん、ニコリともしない謹厳な教授は、梅雨どきのムシ暑い日の授業で、その有機的設計の面白さを語り、一度行ってみたらよかろう、と学生たちにすすめたのであった。その時の先生の脳裏には、琥珀色の頂きに泡立つ冷えたジョッキがチラついただろうと、私はいまなお推測する。

私は学園近くの、かねて目星をつけていた煙突をスケッチに行ったのだが、アツという間に取り壊わされていた。煉瓦積みの、お風呂屋さんの煙突であった。このスケッチの煙突もいつまで在る

としょかん用語集 (2)

3冊 長期貸出

夏休みは「長期貸出」となり一人3冊まで借ります。

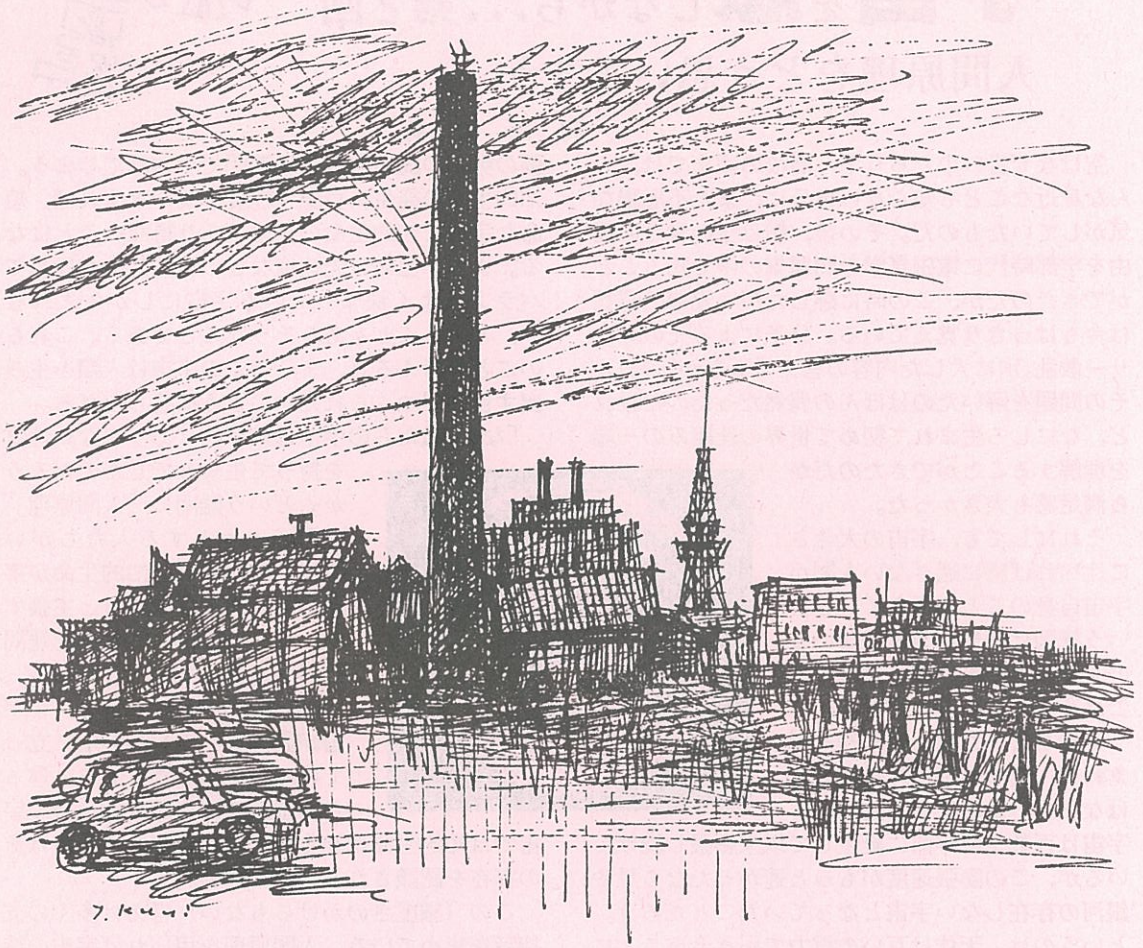
6時半 閉館時間の短縮

閉館時間は通常の8時から6時半まで。土曜日は6時が3時までと短縮になります。

夏休み案内 —— 数づくし ——

9月 試験期間(10日前から)貸出停止

夏休みが終わればすぐ試験が待っています。試験が始まる10日まえから貸出は停止になります。



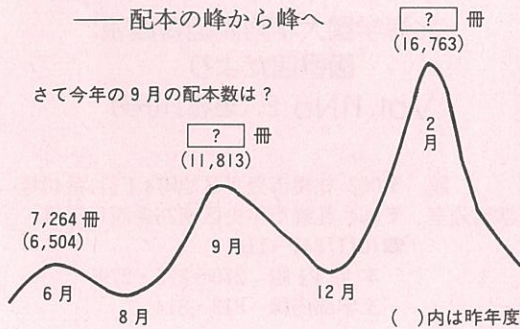
か分らない。冒頭にあげたカットは「悪魔の音叉」と呼ばれる、いわば“有り得ない”図形だが、煙突と見立ててもよい。しかと頭に刻んだエントツ

が、足もとで消滅してしまうというのは、いまの都市風景を象徴しているようだ。

(くにた ゆうさく 教養部教授)

もう一つのライブラリズム

——配本の峰から峰へ



1年を通してみると利用には一定のパターンが見られます。ピークが2つあって、一つは9月と2月の試験期です。これも一つの「ライブラリズム現象」といえます。

その前に今年の6月の配本数が出ました。去年より760冊上まわり12%増の7,264冊でした。これからゆるやかに下り9月となるわけですが、去年は11,813冊を数えましたが、さて今年はどうなるでしょう。

専門書充実で今年は大幅にふえそうです。

宇宙を感じながら***第2回



人間原理をどう思いますか

岡崎敦男

空はなぜ青いのだろう？ 高校の頃までは、こんな身近なことも知らない自分に、また不思議な気がしていたものだ。その後、僕は空の青さの理由を学部時代に電磁気学の問題集の中で知ることができたのだが、この時に感じた深い安堵の感覚は今もはっきり覚えている。分子による光のレーリ-散乱。別に大した内容の答えでもなかったし、その問題を解いたのはほんの偶然だったのだけれど、なにしろ生まれて初めて世界の仕組みの一端を理解することができたのだから満足感も大きかった。

それにしても、宇宙の大きさに比べれば塵に過ぎない人間が宇宙自身のことを考えているという構図は何やら尋常でないものを感じさせる。僕らはなぜここに存在しているのだろうか。

奇妙なことだが、確率的に考えれば、僕らは宇宙に存在してはならないことになる。例えば、宇宙は百数十億年前に誕生して以来膨張し続けているが、この膨張速度がもっと速かったなら星や銀河の存在しない宇宙となっていたことだろう。というのは、天体は互いの重力で引き合うことによって生まれるのだが、宇宙の膨張が速すぎると引き合って近づく以上に互いの間隔が広がってしまうことになり、結果として天体が生まれないのである。逆に、膨張速度がもっと遅かったとしたら宇宙はすでに消滅していたはずである。宇宙の膨張は宇宙自身の重力により減速されるので、膨



張の勢いの弱い宇宙は短期間でつぶれてしまう。知的生命の発生に百億年程度必要だとすれば、短命な宇宙に知的生命の発生はあり得ないことになる。また、生命は光速速度などの自然定数が極めてバランスよく決まっている宇宙にしか生まれえない、ということもありそうなことである。これらのことを考えると、まるでこの宇宙は人類を生み出す目的でつくられたかのように感じられる。

「なぜ、私たちの宇宙は確率的にあり得ない性質を持って生まれてきたのだろうか」という難問に「人間原理」で答えようとする人たちがいる。人間原理は、知的生命が宇宙の中心的存在であると主張する。この立場に立てば上記難問に対する答は次のようになる。「知的生命が発生するような宇宙が微妙なバランスの上に立っているのは当然だ。もっと違った膨張速度や自然定数を持つ宇

宙では知的生命は発生せず、したがって宇宙はその存在を認識されることも無い。」

この（謙虚さのかけらもない）考えは多くの支持者を集めている。人間原理を用いれば宇宙の持つ様々な特性があっけなく説明されてしまうのである。確かに画期的な考え方だと思うのだが、僕はこの考え方にはどうもなじめないでいる。あなたは人類がなぜ存在していると思いますか？

(おかざき あつお 教養部講師)

編集後記

◆“春”の号が出てから間もないうちに、“夏”の号が出ることになりました。これは前号の発行が大幅に遅れた為です。◆前号では編集者のミスで誤字があり、関係者に御迷惑をおかけしました。この場所を借りてお詫び致します。◆今回も時間に追われながらの編集作業で、不備な点があるかもしれません。しかし、中身は“見て楽しく、読んで面白い”誌面を作れたと思います。

北海学園大学附属図書館報
図書館だより

Vol.11No.2.(通巻110号)

本館 〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
工学部分室 〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
☎(011)841-1161
本館内線 270~275・279
工学部内線 813・814